

# EurekaIV

六年制通信 No. 31 平成 29 年 2 月 4 日 (土) 号

## 幸福と自由

今はどうか知らないけれど、昔は各大学のゼミで、他大学の先生を招いた少人数の談話会のようなものが多くありました。私たち学生も参加していたのですが、専門性が高すぎると困惑するだけで、自分の不勉強を確認する会みたいになりました。しかし、本当の学会ではないので随所に雑談のようなものが入り、普段は聞けないような質問もできるので有益な時間でもありました。そんな談話会の一つで、人間の営みの歴史を学校でどのように教えればよいか、という問題が出ました。そう問われて高名な日本の哲学者は『史記』でも読めば足りるんじゃないでしょうか」と答えました。その先生はご専門はギリシア哲学でしたが、さらに続けて「ギリシアの昔から、さまざまな地域で似たような物語が発生している。そういった物語には人間がどのように考え行動するかが反映されている。童話の類も皆そうだ。人間の感情と行動はそう変わるものではない。だから昔の歴史書は現代人にも通用する。古典を読めば現代がわかる」と述べられました。「歴史は繰り返すと言うではないか」ともつけ加えられました。「歴史は繰り返す」はマルクスが使って有名になったとされていますが、もとは古代ローマの歴史家の言葉でしょう。英語では **History repeats itself.** ですよ。

ダーウィンの「進化論」以降、つまり『種の起源』1859年の発行ですからそれ以降ですが、進化とか進歩とかいった言葉が誤解されているように思います。言葉の適用範囲を逸脱している、そう言ってもいいように思います。ダーウィンは生物学的な「種」に限って考察したはずですが、つまり進化とは変化であって、進歩という概念ではないわけです。ところが、これがやがて人類はサルからヒトへと進化、つまり生物的に進歩したと解釈するようになり、ヒトのなかでも黒人から黄色人種を経て白人へと進化した、そう信じるように（科学者でさえ）なったらしい。面白いですね。こういう発想も古典を読めばわかるのでしょうか。一度、哲学の先生に聞いてみたかったなあ。ともあれ、人は、あるいは人の生活は、時間の経過とともに進歩するはずだという感覚が現代では支配的であるように思います。ということは「現代」は常に進化・進歩の頂点にいることになります。頂点でなければならない、そう信じきっているように思えます。確かに文明の発達は、医療の進歩もそうですが、日進月歩ですね。大げさではなく昨日より今日の方が明らかに進んでいる、そういう分野が多くあるのでしょうか。実感として、例えば 20 年前、30 年前よりも今の方が圧倒的に豊かであると思います。ひょっとしたら、今の日本は 100 年前の日本人が空想の世界で「天国」とイメージしたような国になっているのかもしれない。街並みの清潔さ、食料の豊富さ、

移動手段の迅速かつ安全なこと、教育機関や病院の充実、また、情報収集機器にあふれ便利な世の中になっています。30年前には贅沢なことも、今は日常になっているのではないのでしょうか。あの先見の明に優れていると言われた坂本竜馬も、まさか現代日本の状況を予見はできなかったでしょうね。これから先、きっともう後戻りはできないことでしょう。豊かさと便利さはどこまで広がっていくのでしょうか。しかし、君たちはまさか自分が天国に住んでいるとは思っていないでしょうね。

また、私たちの生活の自由度もどんどん広がっているようです。私たちはほとんど自分のことを自分で決められる、つまり自分の人生を選択できるようになっています。自由であることは素晴らしいことだと、誰も疑わないでしょう。目の前にある豊富な選択肢は、確かに社会の進歩を示しています。

ところが、選択肢の多さは即ち幸福な状態である、とは言えないという議論があります。自由度が高ければその分だけ幸せか、よく考えるとそうではないというわけです。先日6年生と同志社大学の入試問題の英文を読んでいたら、そのことが書いてありました。昔、私たちの父や祖父の時代、選択は多くの場合あるかないかの二者択一だった。私たちは何かを選択する場合、「常に最良の物をとれ」と考えるだろうが、昔はそれが非常に単純だった。ところが今は選択の幅が広すぎて、自分が持っているものと持とうと思えば持てるもの、持つべきものとを比較してしまい、何を選択しても不安になる。昔は、そもそも持つことを想像できないことが多かったのかえって不安にならない。選択肢が多すぎると、どんな決断をしても、どんな結果になっても、私たちは本質的に満足できないままにいる、というような内容でした。

やろうと思えばできることが多いと、人は選べないものなんですね。この英文を読みながら生徒に、もし大学が2校しかなければ受験校の選択に迷いはないだろう、でも何百校以上もある中からA大学を選んだとして、進学した後少し期待と違ったら「B大学やC大学にしておけばよかった」と、後悔するかもしれない、そういう話をしたら「きっとそうですね」と言っていました。

ですから、常にベストの選択、正しい選択をしなければならないという考え方を捨てると、英文の中でバリー・シュワルツという心理学者が言っています。そうかもしれませぬね。何かを決定するときはbestではなくgood enoughで満足するように訓練しなさい、とも言っています。自由度が上がって幸せだと思ってはいけないということですね。君たちにも心当たりがたくさんあるのではないのでしょうか。

ちなみに、私は選択肢が多くあるがゆえに幸福を感じにくいとか、生きにくい時代だとか考えたことはないです。(その気になったら)自分で選べるということがたくさんあるという現代は、やはり幸せな時代です。努力の報われる時代だと言ってもいいと思うからです。幸福だと思うかどうか、それは究極他者との比較がベースですからね。絶対的幸福などというものがあるとは思えないし、幸福な状態はほんの些細なことで簡単に崩れます。他者と比べて相対的に自分が幸せか、そういう尺度を持つ限り、自分の決定には常に疑問符がつくことでしょう。昨日の自分と今日の自分、そして明日の自分の成長だけを考えていれば、努力を悔いる必要はないと私は思います。